

I 令和7年度事業報告

1 令和7年度事業実施概要

国際情勢は2月末に開始されたアメリカ、イスラエルによるイラン侵攻により緊迫の度合いを深めており、ホルムズ海峡の封鎖に伴う原油の輸入停止は、わが国の経済活動に極めて甚大な影響を及ぼそうとしている。

国内では、先の衆議院選挙で自民党が歴史的な大勝利を納め、高市総理の提唱する「責任ある積極財政」に期待が高まっているが、最大の課題である円安、物価高の傾向に顕著な変化は見られず、中東情勢も相まって、不透明感がますます強まってきている。

畜産経営においては、継続する円安傾向に国家間での飼料原料獲得競争の激化が拍車をかけ、今年度も引き続き、厳しい経営環境となった。

酪農では飼料価格の高止まりにより、収益改善について、困難な状況が継続している。

肉用牛でも厳しい環境は同様ながら、令和7年1～3月の四半期販売牛については肉用子牛の飼養管理向上に取り組む生産者に対する奨励金が交付された。

一方、家畜衛生関連では、県内で15年ぶりに高病原性鳥インフルエンザが発生し、全国では15道県23事例（3月末時点）の発生が確認されている。豚熱についても、依然として野生イノシシの陽性が確認されており、バイオセキュリティ強化が必須となっている。

当協会では、今年度、県予算による飼料価格高騰緊急対策事業をはじめ、畜産クラスター機械導入事業や畜産ICT事業、楽酪GO事業、肉用子牛補給金制度や牛マルキン制度、バイオセキュリティの強化等に取り組んだ。

また、畜産業に対する理解醸成を図るため畜産女性を中心とした農業高校出前授業を開催するとともに、県産食肉の消費拡大を目的とした啓蒙グッズを作成し、国産食肉フェアを実施した。

一方、事務局を預かる活動については、生産者の切なる課題を県議会及び各関係機関に訴えるとともに、消費者に対しては、畜産物の消費拡大が生産者の応援に繋がることをメディア等を通じて理解を求めた。なお、地域の畜産について理解を深める取組みとして、県産畜産物の普及啓発と地方競馬の地域貢献についてイベントの実施により周知を図った。

2 令和7年度の主な行事

年	月	日	行事内容	
7	5	30	(一社) 三重県畜産協会 定期監査会	
		6	2 (一社) 三重県畜産協会 定期監査会	
		11	(一社) 三重県畜産協会第1回理事会	
		30	(一社) 三重県畜産協会 定時総会	
	7	7	(一社) 三重県畜産協会第2回理事会 (書面決議による)	
		30	(一社) 三重県畜産協会第3回理事会 (書面決議による)	
	8	7	7	農業関係団体と三重県知事との意見交換会
			27	三重県勤労者福祉会館第1回管理運営委員会
		9	19	三重県畜産研究所 第1回研究評価委員会
	10	31	31	(一社) 三重県畜産協会 第4回理事会
31			(一社) 三重県畜産協会 第4回理事会	
8	2	12	三重県勤労者福祉会館第2回管理運営委員会	
		3	23 (一社) 三重県畜産協会 第5回理事会	

3 会員の状況

(令和8年3月末現在)

	期首	増加	減少	期末
正会員	35	0	0	35

4 職員に関する事項

(令和8年3月末現在)

	期首	採用	退職	期末
正職員	5	0	0	5
嘱託職員	5	0	0	5
臨時職員	1	0	0	1
パート職員	2	0	0	2
合計	13	0	0	13